

平成22年度 事業報告



目 次

1. 法人本部	P 1
2. 吉備国際大学	P 1 8
3. 九州保健福祉大学	P 2 3
4. 吉備国際大学短期大学部	P 2 8
5. 順正高等看護専門学校	P 3 1
6. 九州保健福祉大学総合医療専門学校	P 3 5
7. 平成22年度国家試験結果	P 3 9

平成 22 年度 事業報告

I. 法人事業報告

1. 事業の概要

順正学園は昭和 42 年に創立して以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、私学として特色ある教育、研究体制の充実に努めてまいりました。

また、地域社会及び国際社会にも貢献できる大学づくりを目指し、国際交流、ボランティア、産学官連携の事業にも積極的に取り組んできました。

平成 22 年度の主な行事として、11 月に吉備国際大学 20 周年記念式典を挙行すると共に、順正学園中国留学生同窓会により創立者加計勉先生の胸像が贈られ盛大に除幕式が行われました。また 3 月には吉備国際大学同窓会より大型バスの寄贈がありました。

2. 各設置校の入学者・学生数等の状況

単位 (人)

	吉 備 国 際 大 学					九 州 保 健 福 祉 大 学			
	学 部	大学院 博士	大学院 修士	通信大学院 修士	通信大学院 博士	学 部	通信学部	通信大学院 修士	通信大学院 博士
入学者	412	2	39	49	3	433	92	24	13
編入学者	24	0	0	0	0	2	80	0	0
9 月入学者 (再入学含む)	39	0	4	0	0	1	53	0	0
5/1 学生数	2,233	9	79	95	7	1,910	608	52	34
内留学生	446	1	18	0	0	37	0	0	0
卒業者	620	—	—	—	—	277	132	—	—
修了者	—	6	29	25	0	—	—	21	2
退学者	67	0	5	15	0	57	45	3	2
満期退学者	—	0	—	0	2	—	—	—	9
除籍者	26	0	1	2	0	11	11	0	0
休学者	11	0	0	10	0	17	63	6	2
留年者	73	0	8	8	0	88	174	4	1

	吉備国際大学短期大学部	順正高等看護専門学校	九州保健福祉大学総合医療専門学校	合計
入学者	44	76	73	1,260
編入学者	0	0	0	106
9月入学者 (再入学含む)	0	0	0	97
5/1 学生数	143	150	207	5,527
内留学生	5	0	0	507
卒業者	91	31	59	1,210
修了者	4	—	—	87
退学者	8	13	10	225
満期退学者	—	—	—	11
除籍者	2	0	1	54
休学者	1	3	8	121
留年者	3	10	4	373

II. 法人の概要

1. 役員・教職員の概要

【理事・監事・評議員】

区分	定員	現員			備考
		常勤	非常勤	計	
理事	9~13	4	9	13	
監事	2	1	1	2	
評議員	27~32	19	10	29	

*平成22年5月1日現在

【教職員数】

	教員数	職員数	合計
法人部門	—	5	5
吉備国際大学	153	66	219
九州保健福祉大学	139	42	181
吉備国際大学短期大学部	22	10	32
順正高等看護専門学校	13	4	17
九州保健福祉大学総合医療専門学校	16	4	20
合計	343	131	474

* 平成 22 年 5 月 1 日現在

Ⅲ. 各事業の概要

1. 設置関係（平成 23 年 4 月からの変更）

（1）吉備国際大学

- ①保健科学部を保健医療福祉学部に変更し、同学部に社会福祉学科を開設
- ②心理学部 臨床心理学科を心理学科に変更し、同学部に子ども発達教育学科を開設

（2）吉備国際大学短期大学部

- ①保健科美容デザイン専攻と保健科メディカルビューティー専攻の募集停止をおこない、新たに保健科総合美容専攻を開設

2. 入試・広報活動

(1) 入試関係

2011.5.1(現在)

ア 志願者・入学者の状況

(単位 人)

区分	設置校	志願者	入学者	入学定員	充足率
一年次	吉備国際大学	1,076	441	650	67.85%
	九州保健福祉大学	1,077	420	570	73.68%
	吉備国際大学短期大学部	53	46	60	76.67%
	順正高等看護専門学校	137	97	80	121.25%
	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	178	69	85	81.18%
	計	2,521	1,073	1,445	74.26%
編入学	吉備国際大学	16	13	80	16.25%
	九州保健福祉大学	7	6	14	42.86%
	計	23	19	94	20.21%
大学院	吉備国際大学	47	38	59	64.41%
	計	47	38	59	64.41%
(通信) 大学院	吉備国際大学	34	32	85	37.65%
	九州保健福祉大学	18	18	35	51.43%
	計	52	50	120	41.67%
合計		2,643	1,180	1,774	66.52%

イ 設置校別の受験・合格・入学の状況

(ア) 吉備国際大学

(単位 人)

学部	社会学	保健医療福祉	国際環境	心理	文化財	合計
入学定員	230	120	70	100	80	650
志願者数	234 (49)	647 (333)	39 (6)	105 (44)	51 (29)	1,076 (461)
受験者数	228 (47)	626 (322)	39 (6)	102 (42)	51 (29)	1,046 (446)
合格者数	224 (48)	431 (229)	37 (6)	125 (56)	49 (28)	866 (367)
入学者数	147 (26)	186 (93)	26 (4)	57 (25)	25 (11)	441 (159)

() は女子内数

(イ) 九州保健福祉大学

(単位 人)

学 部	社会福祉	保健科	薬	合計
入学定員	235	160	170	570
志願者数	202 (102)	310 (151)	565 (326)	1,077 (579)
受験者数	201 (102)	307 (150)	559 (326)	1,067 (578)
合格者数	202 (102)	306 (150)	536 (317)	1,044 (569)
入学者数	107 (51)	148 (65)	165 (89)	420 (205)

() は女子内数

(ウ) 吉備国際大学短期大学部

(単位 人)

学 科	保健科	合計
入学定員	120	120
志願者数	53 (5)	53 (5)
受験者数	52 (5)	52 (5)
合格者数	55 (5)	55 (5)
入学者数	46 (4)	46 (4)

() は男子内数

(エ) 順正高等看護専門学校

(単位 人)

学 科	看護科	合計
入学定員	80	80
志願者数	137 (24)	137 (24)
受験者数	125 (22)	125 (22)
合格者数	124 (22)	124 (22)
入学者数	97 (19)	97 (19)

() は男子内数

(オ) 九州保健福祉大学総合医療専門学校

(単位 人)

学 科	看護	第一鍼灸	第2鍼灸	合計
入学定員	40	30	15	85
志願者数	153 (42)	10 (7)	15 (12)	178 (61)
受験者数	152 (41)	10 (7)	15 (12)	177 (60)
合格者数	55 (7)	10 (7)	15 (12)	80 (26)
入学者数	44 (5)	10 (7)	15 (12)	69 (24)

() は男子内数

(2) 広報関係

ア オープンキャンパス

設置校	開催回数	参加人数
吉備国際大学	5	1,201
九州保健福祉大学	2	1,607
順正短期大学	6	165
順正高等看護専門学校	6	158
九州保健福祉大学総合医療専門学校	4	184

イ その他

(ア) 学園（各設置校）の魅力と入試情報の発信

年間を通じて、高等学校訪問、進学説明会、入試情報説明会などに取り組み、学園（各設置校）の魅力、学科改編に関する情報、入試要項など学生募集に関する情報を受験生、保護者、進路関係者などに周知した。

(イ) 海外留学生の確保

海外支局長が中心となり、中国・韓国などからの留学生の確保に積極的に取り組んだ。その結果本学園における平成23年度各設置校の留学生の在籍・入学状況は次のようになった。

(単位 人)

設置校	区分	別科	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計
吉備国際大学	在学生数	28	79	145	125	68	24	441
	入学者数	6 (6)	47 (35)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (0)	69 (47)
九州保健福祉大学	在学生数		5	9	9	5	1	28
	入学者数		4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (4)
順正短期大学	在学生数		2	1				3
	入学者数		2 (0)	0 (0)				2 (0)
合計	在学生数	28	86	155	134	73	25	501
	入学者数	6 (6)	53 (39)	2 (0)	4 (4)	0 (0)	11 (0)	76 (49)

※ () 数字は平成23年度 支局長推薦入学者数

ボランティアセンター活動実績

高梁キャンパス

1. 平成 22 年度ボランティアセンターの活動

災害復興支援セクション

- (1) 宮崎県全域における口蹄疫被害に伴う募金活動

日 時：平成 22 年 5～6 月

場 所：学園内のほか、高梁市内各所に募金箱を設置。駅前等で街頭募金

内 容：平成 22 年 4 月、宮崎県内で発生した家畜伝染病・口蹄疫で、被害に苦しむ畜産農家らを支援しようと、学内外で募金を実施した

募金額：2,752,000 円（加計グループ）

- (2) 高梁市災害ボランティアセンター研究会「災害ボランティアセンターワークショップ」の実施

日 時：平成 22 年 9 月 6 日

場 所：高梁総合文化会館

内 容：高梁市内における大災害発生時のボランティア受け入れに備え、災害ボランティアセンターの立ち上げ方や運営方法を学習。ボランティアと被災者ニーズをすり合わせるシュミレーションも体験した

- (3) 東日本大震災に伴う募金活動

日 時：平成 23 年 3 月～

場 所：学園内のほか、高梁市内各所に募金箱を設置。市内スーパー、駅前等で街頭募金

内 容：平成 23 年 3 月 11 日、宮城、福島、岩手各県を中心にマグニチュード 9 の大地震が発生。その後、連動するかのように東日本を中心に大きな地震が頻発したのを受け、被災者救援・復興のための募金活動を学内外で実施。AMD A（4 月 20 日）や山陽新聞社、NHK（4 月 18 日）などを通じて義援金や支援金に充てた

募金額：4,000,000 円（高梁キャンパスのみ）

- (4) 東日本大震災に伴う救援物資の搬送と仕分け作業の実施

日 時：平成 23 年 3 月 31 日

場 所：公設国際貢献大学校（新見市）

内 容：学内の教職員や市民に呼びかけ、被災地に送る救援物資を募集。集まったマス

クや毛布、おむつなどライトバン約 2 台分の物資を公設国際貢献大学の体育館に運び入れると同時に、学生たちは物資を種類別にダンボールに詰め替えるなど、仕分け作業にも汗を流した

地域貢献セクション

(1) 本町地区「町家通りのひな祭り」

日 時：平成 22 年 4 月 3・4 日

場 所：高梁市本町地区

内 容：ひな祭り会場で昔遊び・手作り遊びコーナーなど実施。交通整理など

(2) 国際医療ボランティア AMDA ボランティアセンターとの連携

日 時：平成 22 年 4 月 18 日

場 所：岡山市・AMDA 関連施設

内 容：テント出展し、手作り遊びなど AMDA 主催イベントの支援

(3) 新入生歓迎ボランティア

日 時：平成 22 年 6 月

場 所：吉備国際大学～高梁駅周辺等

内 容：新入学生スタッフを迎えてのクリーン作戦と市内の案内を実施

(4) TV ドラマエキストラボランティア

日 時：平成 22 年 6 月 13・20 日

場 所：吹屋ふるさと村周辺

内 容：TBS ドラマ「JAPANESE AMERICANS」の撮影で、学生がボランティアでエキストラとして参加

(5) わくわく子どもフェスタ 21

日 時：平成 22 年 6 月 19 日

場 所：栄町商店街にここ広場等

内 容：高梁市内の子どもたちを対象にした手作り遊び教室やステージ発表など

(6) 薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン

日 時：平成 22 年 6 月 29 日

場 所：JR 備中高梁駅前

内 容：岡山県備北保健所と合同で、覚せい剤などの違法薬物の乱用防止を市内の高校生らに呼びかけた

(7) 食品衛生セルフクリーン作戦・一日保健所長

日 時：平成 22 年 8 月 3 日

場 所：岡山県備北保健所等

内 容：ボランティアセンターの学生スタッフが一日保健所長に任命され、市内2ヶ所のスーパーで食中毒予防を訴えた

(8) 御前神社秋季大祭ボランティア

日 時：平成22年10月10日

場 所：高梁市内

内 容：地域の氏神様である御前神社の秋季大祭に、神輿の先導役として女子サッカー部とボランティア学生が参加。獅子舞や天狗などにも扮して、地域住民と交流した

(9) 第11回ボランティア実践発表シンポジウム

日 時：平成22年12月11日

場 所：吉備国際大学国際交流会館

内 容：高梁高等学校、吉備国際大学、九州保健福祉大学、市民団体から計11人が、日頃から取り組んでいるボランティア活動について発表した

(10) 学生×ボランティア向上プロジェクト「年末交流&鍋しましょ☆チキチキ！中山間地域元気つけ隊～サンタ大作戦！！2010」

日 時：平成22年12月23日

場 所：高梁市備中町平川地区

内 容：中山間地域の住民と交流するため、備中町平川地区を訪問。一人暮らしのお年寄り宅の清掃活動やしめ縄作り、交流会を通じて、親睦を深めた

(11) 女子サッカー部員による雪かきボランティア

日 時：平成23年2月15日

場 所：高梁市奥万田町内

内 容：前日から降り続き、数十センチも積もった雪を、女子サッカー部員がかき出した。地域住民の生活道路の確保に一役買った

(12) 登下校時の声かけ運動

日 時：毎週月曜日

場 所：高梁市内

内 容：防犯パトロール隊ボランティア部隊による登校時の小中学生に対する声かけ

(13) 学園キャンパスあいさつ運動

日 時：毎月8日前後

場 所：高梁学園内

内 容：ボランティアセンターの学生スタッフと吉備ガーディアンズが中心となって学内

で朝のあいさつを行う

国際貢献セクション

(1) 国際協力実習

日 時：平成 22 年 8 月 8～22 日

場 所：インド・プーネ市

内 容：NGO や大学などを見学し、ボランティア体験やストリートチルドレンの支援活動などを行う

(2) 国際協力実習における実習用レクリエーションキットの携帯

内 容：平成 22 年 8 月 8～22 日、インドで実施する「国際協力実習」の参加学生を対象に、現地での実習及びレクリエーション活動を円滑に行うための実習用キット（けん玉、なわ飛び、色鉛筆、折り紙など）を携帯させる

(3) インド・プーネ市のストリートチルドレンへの支援

内 容：伊賀祭（11/20・21）で国際協力実習のパネル展示やインド・プーネ市のストリートチルドレン支援のためのエコバッグ・Tシャツ販売など

(4) 国際協力実習（23 年度向け）研修会

日 時：平成 23 年 1 月 18 日

場 所：吉備国際大学 10 号館

内 容：23 年度の国際協力実習の情報提供と同時に、参加学生を募るため、AMD A から講師・小林麻衣子さんを招待。学生約 20 人が、外国での危機管理のあり方や AMD A の活動事例などを学んだ。

障害学生支援セクション

(1) 入学式での情報保障

日 時：平成 22 年 4 月 4 日

場 所：第 2 体育館

内 容：吉備国際大学入学式において、パソコンによる挨拶等の要約筆記

(2) 第 11 回ボランティア実践発表シンポジウムでの情報保障

日 時：平成 22 年 12 月 11 日

場 所：吉備国際大学国際交流会館

内 容：シンポジウムにおいて、パソコンによる発表内容等の要約筆記

(3) ノートテイク養成講習会

日 時：平成 23 年 1 月 12・19・26 日

場 所：大学 2 号館端末室

内 容：ノートテイクに関する講義、実技

(4) 卒業式での情報保障

日 時：平成 23 年 3 月 22 日

場 所：第 2 体育館

内 容：吉備国際大学卒業式において、パソコンによる挨拶等の要約筆記

(5) 障害学生支援に関する情報収集と他機関、他大学との連携

内 容：総社市の要約筆記サークルとの連携～県立総社高校の要支援生徒に対するノートテイクの実施など

その他

(1) 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2010

日 時：平成 21 年 9 月 6、7 日

場 所：京都府立ゼミナールハウス

内 容：全国のボランティアセンターの学生スタッフが集結して、セミナーワークなどを行う

参加者：学生スタッフ 4 人

(2) 大学ボランティアセンター学生スタッフ研修合宿

日 時：平成 22 年 9 月 18～19 日

場 所：高梁市川上町・弥高山公園

内 容：順正学園ボランティアセンターと岡山県ボランティア・NPO活動支援センター「ゆうあいセンター」の共催で、岡山県内のボランティアセンター学生スタッフを対象とした、1泊2日の研修合宿を開催。順正学園のほか川崎医療福祉大学、美作大学、岡山理科大学の各ボラセンから、約 30 人の学生スタッフが参加し、中山間地域での実践ボランティア研修などを行った

(3) 中山間地域ネットワーク推進シンポジウム

日 時：平成 23 年 1 月 23 日

場 所：岡山シンフォニーホール

内 容：岡山県内のNPOや企業、大学関係者らが中山間地域の活性化について議論を交わした。パネルディスカッションに学生スタッフ・水田光重君が参加。過疎化が進む中山間地域での若者の力の必要性などを訴えた

(4) 学生ボランティアセンター&ボランティアサークル交流会

日 時：平成 23 年 2 月 26 日

場 所：岡山県ボランティア・NPO活動支援センター「ゆうあいセンター」

内 容：各ボランティアセンター等の年間活動紹介や、交流ワークショップなど

2. 情報発信・広報活動

(1) ボランティア情報システム「VISKET」の運用

- ・年々増大しているボランティアの派遣・要請件数に迅速に対応するため、登録作業やボランティア情報配信を携帯電話やパソコンで行うシステムを運用している

(2) 広報誌の発行

- ・高梁キャンパスボランティアセンター通信第9号～平成22年4月、1,300部発行
- ・順正学園ボランティアセンター通信 vol.6～平成22年9月、3,000部発行

(3) 取材

- ・新聞、テレビ各社による活動取材

宮崎キャンパス

1. 平成 22 年度ボランティアセンターの活動

(1) ボランティア活動オリエンテーション

日 時：平成 22 年 4 月 17 日

場 所：九州保健福祉大学内

人 数：約 30 名

内 容：ボランティアセンターに関する説明及び学生によるボランティア活動内容の紹介
や質疑応答

(2) 宮崎県全域における口蹄疫被害に伴う募金活動

日 時：平成 22 年 6 月

場 所：加計グループ教職員・学生のほか、学外企業などに要請

内 容：平成 22 年 5 月に発生した口蹄疫被害により、宮崎県内の畜産業だけではなく大
きな業種において被害が出ていたため、宮崎県を支援しようと、グループ学内
外で募金を実施した

募金額：2,752,000 円（加計グループ）

(3) 介助法講習会

日 時：平成 22 年 7 月 2 日

場 所：九州保健福祉大学内

人 数：約 30 名

内 容：外部から作業療法士ならびに介護福祉士を講師に招き、介助法の講習会を実施。
学生・教職員らが介助の基礎技法について学んだ

(4) 延岡市防災フェスティバルへの参加

日 時：平成 22 年 11 月 23 日

場 所：市役所正面駐車場

人 数：10 名

内 容：防災に対する知識の向上等をふまえ、大学から車椅子の試乗を行った

(5) 第11回ボランティア実践発表シンポジウム

日 時：平成22年12月11日

場 所：吉備国際大学国際交流会館

人 数：2名参加（九州より）

内 容：高梁高等学校、吉備国際大学、九州保健福祉大学、市民団体から計11人が、日頃から取り組んでいるボランティア活動について発表した。九州からは初参加

(6) 天下一ひむか桜植栽延長地草刈（延岡アースディの一環事業）

日 時：平成23年2月13日

場 所：野地町堤防（松山橋～消防署近くの河川敷）

参加者：教職員と学生 約50名

(7) 延岡アースディ

日 時：平成23年3月13日

場 所：鹿川キャンプ場近辺

人 数：約50名

内 容：延岡アースディは、延岡の素晴らしい山村文化に触れるとともに、悪化しつつある地域の環境問題に関心を寄せるためのイベントとして開催。九州保健福祉大学は、ひめしゃら倶楽部・宮崎北部森林管理署のご協力により、鹿川において2組に別れ、植樹等を行った

(8) 東日本大震災に伴う募金活動

日 時：平成23年3月～

場 所：学園内など各所に募金箱を設置

内 容：東日本大震災の被災者救援・復興のための募金活動を学内外で実施。教職員や学友会、海外教育交流協定校などからの募金を、宮崎県（4月20日）を通じて義援金や支援金に充てた

募金額：1,145,000円（宮崎キャンパスのみ）

《学生参加ボランティアの一部紹介》

①Sunクラブひまわり ②発達障害親の会フレンド子どもクラブ ③ふうせんバレー ④第17回福祉ふれあい祭⑤第1回障がい者自立支援体験交流キャンプ ⑥ひかり学園 ⑦わいわいワンパーク ⑧学生支援員ボランティア ⑨全国スポレク宮崎大会(卓球バレー) ⑩メンタルフレンド研修会 ⑪社会を明るくする運動 ⑫介助法講習会 ⑬城山神楽まつり・チャリティー餅つき大会 ⑭24時間テレビ チャリティーボランティア ⑮障がい者自立支援体験交流キャンプ ⑯ふれあい福祉運動会 ⑰のぼりざるフェスタ ⑱卓球バレースタッフ ⑲みんなの人権思いやり交流プラザ ⑳

4. 国際交流関係

A. 教育交流協定の締結

- ・2010年5月11日、ドイツ, SRH ハイデルベルク専門大学と教育交流協定を締結した。
- ・2010年10月26日 韓国, 烏山大学と教育交流協定を締結した。
- ・2010年10月26日 韓国, 慶南アニメーション高等学校と教育交流協定を締結した。
- ・2011年1月21日 フィリピン, ラサル大学（医学部他3学部及び附属病院を有する）との教育交流協定を締結した。

B. 教育交流協定校への学生派遣

1) 短期研修

大 学 名	期 間
米国 ライト大学	2010年8月8日(日)～2010年8月28日(土) 吉備1名 九保1名 引率教員1名(吉備)
米国 フィンドリー大学	2010年8月17日(火)～2010年9月9日(木) 吉備1名 九保1名
ブラジル パラナカトリカ大学 パラナ連邦大学	2010年8月8日(日)～2010年8月30日(月) 九保1名 引率教員1名(九州)
台湾 南台科技大学	2010年8月22日(日)～2010年9月4日(土) 吉備1名
フィリピン 国立大学ロスバニョス校	2010年8月28日(土)～2010年9月2日(木) 九保13名 引率教員1名(九州)

2) 短期交換留学

大 学 名	期 間
米国 ハワイ大学ヒロ校	2010年8月15日(日)～2011年2月12日(土) 吉備1名 九保2名 順正学園教育後援会から 奨学金受給。
韓国 清州大学(吉備のみ)	2010年9月～2011年1月

	吉備 1 名 清州大学から奨学金受給
台湾 南台科技大学（吉備のみ）	2010 年 9 月～ 1 月 吉備 1 名。日本学生支援機構から奨学金を受給。

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期研修

大学名	人数	期間
米国 ライト大学	9 名	2010 年 6 月 26 日（土）
米国 フィンドリー大学	10 名	～
ブラジル パナラカトリカ大学	6 名	2010 年 7 月 21 日（水）
パラナ連邦大学	6 名	

2) 短期交換留学（吉備国際大学のみ）

大学名	期 間
韓国 清州大学	2010 年 9 月～半年間 1 名 2010 年 9 月～ 1 年間 1 名
台湾 南台科技大学	2010 年 9 月～ 1 年間 3 名

D. 21 世紀東アジア青少年大交流計画に基づく受入れ

2011 年 3 月から 1 年間、烏山大学から 1 名を受け入れる。日本学生支援機構から奨学金受給。

E. ライト大学仕事体験プログラム学生受入れ

期 間：前期 2 名
後期 2 名

5. 施設・設備関係

22年度の主な施設・設備関係は下記のとおりです。

【施設・設備関係一覧】 (構築物・建物)

吉備国際大学 留学生寮西側広場給排水・電気設備工事
吉備国際大学 創立者加計勉先生胸像設置工事
九州保健福祉大学 動物生命薬科学科ドッグラン用柵設置工事
九州保健福祉大学 5号棟西側作業療法学科園芸療法用庇取付工事
順正高等看護専門学校 3階看護実習室空調改修工事
順正高等看護専門学校 2階閲覧室空調改修工事

吉備国際大学

1. 平成22年度教育方針

吉備国際大学では、目標を設定して、教育面、研究面、社会貢献面に関する各事業に取り組む。特に教育面については、次の5点を今年度の教育基本方針とする。(1) 教学面からのアプローチにより入学者の確保に努める。(2) 建学の理念及び大学の教育目標に基づき、全学共通教育機構の基本方針を踏まえて学士課程教育を実践する。(3) 教育面における内容・方法面の改善と充実により、学力、学生満足度の向上を図り、退学者の減少を目指す。(4) 留学生の教育指導体制の充実を図る。(5) 在学中の教育成果を反映する指標として、就職率や国家試験等の合格率などを設定し、この数値を高める。

2. 各事業の概要

1. 教育に関する事項

(1) 建学の理念・大学の教育目標に基づき、全学共通教育機構の基本方針を踏まえて学士課程教育を実践する。

- ①全学共通カリキュラムの完全実施
 - ②授業科目の精選または運用上の工夫
- } 授業科目のスリム化

【開講授業を4,500まで減らす目標を立てたが、文化財学部アニメーション文化学科の開設及び子ども福祉学科のカリキュラム改正、教員免許状取得科目の再履修科目の開設、更には留年生への科目開講等により、平成22年度開講科目数は、約5,400となり900科目の削減となった。】

(2) 教育面における内容・方法面の改善と充実により、学力、学生満足度の向上を図り、退学者の減少を目指す。

- ①学力（GPAを含む）の向上（基礎学力向上機構とラーニング・サポートセンターと連携させボトムアップを図る。）

【基礎学力向上については、全学共通教養科目に文章表現入門、文学への招待を開講し、L.S.C.において日本語検定試験対策を実施して国語力向上を図る取り組みを実施中である。GPA については、平均点の低い学生に対する履修上限設定など関連する規則を平成 21 年度から引き続き検討を重ねて、平成 22 年度中に運用開始した。】

②学生満足度を向上させ退学者数の減少を図る。

【学生満足度向上のための検討を各学部・各学科で具体的な対応策を講じて取り組んだ。当初の目標 2.5% 以下は達成できなかったものの、前年度 3.4% (85 人) の退学者を、学生数が大幅に減少しているなかで、平成 22 年度は 3.0% (68 名) まで減少することができた。今後も学生面談の重要性を認識し、きめ細かい指導をおこなっていく。】

(3) 留学生の教育指導体制の充実を図る。

特に日本語能力の向上と留学生の満足度の向上を図る。

【高梁市が実施する「日本語教室」参加へのサポートを行っている。また、日本語能力試験受験を支援し、結果としては、N1 級 115 名受験、21 名合格 (18%)、N2 級 44 名受験、24 名合格 (54%) であった。また、日常的に個々の留学生を把握することにより満足度を上げる取り組みをしている。】

(4) 在学中の教育成果を反映する指標として、就職率や国家試験等の合格率の向上を目指す。

【本年度、卒業者数に対する就職者の割合目標を 80% 以上、就職率 95% 以上を目指して取り組んだ。キャリアカウンセラーの導入、自己分析や企業分析等の実施、就職ガイダンス、就職面談会の開催を行った。また、必要に応じて随時、学内での就職面談会も開催した。さらに、一般教養試験やエントリーシート模擬試験を受験希望学生に提供し、事後にフォローガイダンスを開催した他、エクステンションセンターと連携して国家試験取得を目指す各種模擬試験を実施した。最終の就職率は 93.9%、卒業者数に対する就職者の割合は 72.4% であった。

国家試験合格率は、看護師 100%、保健師 85.7%、理学療法士 89.5%、作業療法士 86.4%、社会福祉士 18.3%、精神保健福祉士 57.1% であった。】

(5) 教員・事務職員・学生による一体的な取り組みをする。

エコアクション 21 の推進

【(財)地球環境戦略研究機関持続性センターのエコアクション 21 中間審査を受け、適合評価を得た。また、大学エコランキングでは 151 大学中 57 位、学生への教育部門は 11 位の好成績を得た。】

(6) 平成 22 年度は大学教育改革支援プログラム (GP) 4 件を更新中。

【文部科学省「大学教育改革支援プログラム」①組織的な大学院教育改革推進プログラム 1 件 (H20~22) ②大学教育・学生支援推進事業 (大学教育推進プログラム(テーマ A))

1 件 (H20~22) ③大学教育・学生支援推進事業 (学生支援推進プログラム(テーマ B))
1 件 (H21~23)】

2. 研究に関する事項

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

(1) 外部資金の獲得をする。

【①平成22年度科学研究費補助金 14件 総額18,979千円を得た。

なお、平成23年度の申請件数は、30件 (基盤研究A 1件、基盤研究B 5件、基盤研究C 14件、若手研究A 2件、若手研究B 5件、挑戦的萌芽研究 3件) のうち8件 (基盤研究B 1件、基盤研究C 6件、挑戦的萌芽研究 1件) が採択された。

②平成22年度継続分のオープンリサーチセンター整備事業 (保健福祉研究所)

2,780万円 内補助額 1,250万円は、中間報告(進捗状況報告書)の結果も問題なく継続中。】

※補助金名称：私立大学学術研究高度化推進事業(オープン・リサーチ・センター整備事業)

※補助期間：平成19年度～平成23年度の5年間】

③平成22年度 JST「さきがけ」補助金 1件申請

【JST (独立行政法人科学技術振興機構) が公募する『戦略的創造研究推進事業』平成22年度「さきがけ」の (大挑戦型) へ1件応募したが不採択。

この他、財団法人ウエスコ学術振興財団に1件、財団法人サウンド技術振興財団に1件、名古屋大学エコトピア科学研究所共同研究に1件、岡山大学資源植物科学研究所共同研究に1件が採択された。民間財団等が公募する研究助成へは計26件申請した。】

(2) 研究所などの研究組織活用をする。

【4研究所合同シンポジウムを10月30日に開催した。(20周年記念行事)

演題1「学園文化都市“高梁”」

(高梁市長：近藤隆則)

演題2「学園文化都市における教育と研究知識と知恵の競演」

(順正学園 理事・東京大学名誉教授・理化学研究所研究顧問：和田昭允)】

(3) 平成22年度 吉備国際大学共同研究費補助金を適正に配分する。

【平成22年度吉備国際大学共同研究費1,000万円 内訳 (1.研究奨励金 20名 32万円
2.科研費の採択者に対する補助 11名 290万円 3.科研費不採択課題に補助 9名 650万円
4.共同研究報告会 抄録作成費・運営費 28万円)】

3. 社会貢献に関する事項

(1) 地域貢献

①吉備国際大学公開講座として、15講座を開講した。

【「みんながいつでもどこでもできる NEW 健康スポーツ」をテーマで、高梁市委嘱事業で高梁市民講座として5回開催。本学が独自に13講座を開催。岡山県委嘱事業で岡山県生涯学習では、「高梁発！地域を学び地域を活かす」をテーマにして16回開催。】

②子育てカレッジ K I U I 講座の開講

【地域の子育て支援事業として、親子の交流遊び場の提供、子育て支援講演などを実施した。オープンセレモニー平成22年7月1日、子育て講座8月2日、9月3日、10月26日】

③スポーツによる貢献

【11月13日地域スポーツ交流会（20周年記念行事）を通じて、学生と市民（少年）が交流することができた。イベント内容：「吉備国際大学杯少年サッカー交流大会」「吉備国際大学親睦テニス大会」「地域スポーツ交流シンポジウム】

④地域活性への貢献

女子サッカー部選手で組織したクラブチームFC高吉備国際大学がチャレンジリーグに参入。市民がファンクラブを結成して、高梁地域の活性に寄与できた。

4. 就職・進路指導計画に関する事項

(1) 大学教育改革支援プログラム「大学教育・学生支援推進事業」(GP)の実行。

【大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム(テーマB))「就活実践力の養成と総合的な就職支援プログラム】

(2) キャリア教育をさらに推進する。

【キャリア教育を推進するため、各学年における到達目標を次のように設定した。1年次：自己分析力、2年次：業界分析力、3年次：適性発見力と目標設定力、4年次：就活実践力の発揮。この目標を着実に達成し、学生が希望の職域へ就職できるよう支援を行った。】

5. 国際交流に関する事項

加計グループ・インターナショナル・フェスティバル(平成23年10月23日)

【午前には日本語スピーチコンテストを開催させた。17名の参加者があり、吉備国際大学、短期大学部の留学生のほかに日進高校、共生高校からも出場があった。また、午後のフェスティバルでは、学生による軽音楽の演奏、各国留学生による舞踏、松山踊りなどを通して、関連学園の留学生、日本人学生、市民の交流が行われた。

続いて、日本語スピーチコンテストで上位入賞者(4名)は、12月18日の加計杯日本語

弁論大会にも出場して、本学留学生が最優秀賞、優秀賞の上位2位を占めた。】

6. 通信教育に関する事項

専門性の高い科目指導と論文指導を平行して行い最短期間での修了を目指す。

(1) 事務局と担当教員との緊密な連絡調整

【教員が院生の学習進捗状況を常に確認できるように連携をはかった。また、研究科委員会では、レポート課題、メディア授業、スクーリングの受講状況を報告している。】

(2) 学生満足度の向上

【研究科委員会で院生の質疑への迅速な対応を周知徹底している。また、教員は、通信教育用に学生からのE-メールを毎日数回チェックするよう取り組んでいる。】

(3) スクーリングの充実

【スクーリングでは、課題やレジュメ等を事前に配布し、充実した受講ができるよう配慮している。また、スクーリング期間中は図書館を開館している。】

7. 大学基準協会による第三者評価

【評価報告書の提出に続き、現地視察を10月15日に受けた。8名の視察委員から専門分野ごとにヒアリングを受けた。その後、認証の評価結果を得ることが出来た。】

8. 開学20周年記念事業

【平成22年11月6日(土)に記念式典を開催した。式典には国内外から多数の来賓が祝賀にお越しいただいた。また、中国留学生卒業生有志からは、創立者の胸像が建立されたほか、記念祝賀会、特別講演会「次元が低い、次元が高いとは?～見える次元、見えない次元～」(広中平祐先生)を開催した。

5月に国際教育交流協定を締結したドイツSRHハイデルベルク専門学校をはじめ、フィリピン大学ロスバニョス校、韓国慶一学園、韓国純心高校及び純心教育財団からのご参加を含め、式典約670名、祝賀会約500名、講演会約800名の参加を得た。】

九州保健福祉大学

平成22年度教育方針

教育目標である「学生の教育に対する満足度の向上」に取り組んだ

1. 教育とはなにか？教員の共通認識の必要性

【教育とは、教員が正しいと思う知識を学習者に伝えることではない！

学習者が教育によって、価値ある変化を遂げることである！】

2. 九州保健福祉大学の全学FDの促進（教員相互の授業参観等の実施）
3. リメディアル教育の拡充（各学科において独自の取り組みがなされている）
4. 学士力の担保としての国家資格等の重視（社会福祉学部の文科省就業力育成支援事業の採択）

以上のことを踏まえながら平成22年度は下記の各事業の実施を図った。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 学生の職業観を自己分析し、社会貢献を行える学生の養成、卒業後の人生設計等の動機づけをねらい、共通科目として「エンカレッジ教育」、「キャリア教育」を開講したが、平成22年度の受講登録者数は、337名（エンカレッジ教育）、366名（キャリア教育）であった。また、各学科でも独自性を持ち国家試験資に標準を併せた教育を行った。

- (2) 国語力を中心とした通年の「基礎学力講座Ⅰ」及び「基礎学力講座Ⅱ」を必修科目として開講し、10名以上の教員が関わり、基礎学力が低下してきている新入生や2年次生を対象として、学士力の向上につなげるべくきめ細かな指導教育内容の充実を図った。
- (3) フィリピン国立大学・ロスバニョス校（フィリピン）と教育交流協定を結んだことにより、獣医師養成教育プログラム内容のすり合わせを行うために、継続して準備を進めている。
- (4) 社会福祉士及び精神保健福祉士の国家資格の合格率を上げるため、「時事福祉学」を昨年と同様に前倒して開講し受験指導体制を構築した。ゼミ担当教員の専門性は様々であるが、各ゼミ当たりの合格率の分析を行った。
また、社会福祉士の統一摸技試験を行い、学生の弱い試験範囲を確認するとともに、試験への意識改革を行った。
文部科学省の『大学生の就業力育成支援事業』に選定され、学生の就業力向上の為の様々な取組を行った。
- (5) 学生の教育にあたって、全学的なFD体制を構築し、学生の教育により一層の充実を図り、昨年度に続き全学的なFDとして中核センター教育開発部門の企画・運営により、9月29日にFD研修会を実施した。
- (6) 学生の教育目標並びに教育効果を全学的に評価するためにGPA制度を導入に向けて準備した。
- (7) ラーニングサポートセンターにおいて希望者を対象に英会話教室を週2回（1コマ90分）、留学生を対象に週一回日本語教育を実施し語学力向上に努めた。
英会話教室は毎週火曜日2時限目と木曜日2時限目に実施し、13名の学生が受講した。
日本語教育については、平成22年度前期においては、ラーニングサポートセンター職員により毎週実施した。後期においては、職員の出産による職員の変更があったため、留学生サポート委員会の教員による日本語教育を実施した。また、11月には本学としてはじめての留学生の日本語弁論大会も開催した。

2. 通信教育関係

- (1) 社会福祉士国家試験対策講座を平成22年9月11日（土）・12日（日）の2日間、本学会場において実施し、通信教育部在学生18名、既卒者3名、通学学部在学生7名、既卒者4名の計32名が受講した。さらに、「直前演習&ラストチェックゼミ」と題して平成

22年12月25日(土)・26日(日)の2日間、本学会場において実施国家試験対策講座を実施し、通信教育部在学学生8名、既卒者3名、通学学部在学学生26名、既卒者3名の計40名が受講した。

なお、他の地域での開催も検討したが、最少実施人数の関係もあり、今後さらに検討していく。

(2) 学習相談会を以下の会場・日程で実施し、好評であったため今後も実施していく。学習会については、引き続き検討を行っていく。

延岡(随時)、岡山 8月7日・8日、2月20日、福岡 8月7日・8日、12月18日・19日、3月12日、宮崎 9月3日、12月10日、3月11日、鹿児島 9月4日、12月11日、3月12日、東京 9月4日、2月19日・20日、大分 9月5日、3月13日、熊本 9月5日、12月12日、3月13日、北九州 2月12日、広島 2月19日。

(3) 平成21年度以前の入学者に対して、法改正に伴う国家試験受験のサポートについて、国家試験直前の対策講座を平成22年12月25日(土)・26日(日)の2日間、本学会場において実施した。

また、各種出版物で推薦書籍の紹介を随時学生に行った。

(4) 平成22年度の科目単位認定試験について、熊本会場及び鹿児島会場を新規に設置し、それぞれ3回実施した。今後も学生の居住地やニーズを考慮しながら検討を行う。

3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進した。

(1) 科学研究費補助金等の申請について

積極的に文部科学省の科学研究費をはじめ、競争的資金制度に申請する様に奨励した。

本年度の新規の科学研究費補助金の採択者は7件であり、継続者を入れると19件、ここ5年間は次の表のとおりである。今後もさらに採択者の増加を目指し奨励していく。

今年度の科研費の申請実績は、11月募集(平成23年度分)は43件の申請があった。

(単位:件)

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
継 続	4	12	6	7	12
新 規	9	6	6	8	7
合 計	13	18	12	15	19

(2) 共同研究費について

毎年、共同研究費の予算が分配されており、申請者に対して公平に審査し、配分を行っている。また、次のような取り組みを実施した。

- ① 科研費申請者に共同研究費研究奨励金を交付（対象者：46名）し、科学研究費申請を積極的に奨励した。
- ② 前年度（平成21年度）に共同研究費を交付された者は、9月に共同研究結果報告書を作成すると共に、本学HPにて研究結果を公開した。

(3) 研究業績集について

今年度の研究業績を九州保健福祉大学紀要の末尾に「総説、著書、原著、学会発表」を各学部に分けて掲載し、学内共同研究を行う際に役立つ情報提供の資料となるよう作成した。

(4) 外部資金導入の促進について

委託事業「地域産学官連携科学技術振興事業費補助金（都市エリア）」、寄付事業など、他の公的機関からの助成金等を積極的に受け入れ、研究を通して社会貢献に寄与した。

都市エリア産学連携促進事業（一般型）は、県産業支援財団が文部科学省の採択を受け、平成20年度から22年度の3年間本学が受託し研究を行い、3年間の事業費は約120,000千円であった。本年度の事業費は、44,889千円で各教員のもと研究が遂行され、2件の特許出願をおこなった。この事業では、本学の他に宮崎大学、県水産試験場、星薬科大学等が参画した。

また、社会福祉学部では文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業（GP）」の採択を受け、平成22年～26年の採択期間で、総額は約90,000千円であった。

受託研究では都市エリア産学連携促進事業の他2件、受託事業6件、研究助成金2件、特別寄付金7件、科研費補助金20件（文科省19件、厚労省1件）と多種にわたり受け入れた。

4. 就職・進路指導計画

- (1) 大学共通基礎科目として、1・2年次に「エンカレッジ教育」、「キャリア教育」を設定し、低学年から自らの進路についての意識付けを行った。
- (2) 各学科のキャリアサポート委員の協力のもとに、年間を通してガイダンスやセミナー等々、さまざまな就職イベントを実施した。特に学生が病院や福祉施設、企業の人事担当者と直に話す貴重な機会である就職面談会については、9/22 宮崎会場（主に

社会福祉学部生)、11/10 福岡会場、11/19 宮崎会場で実施した。さらに、6年制薬学科となって初めての薬学科就職面談会を12/18 本学薬学棟、「薬剤師の仕事説明会」(主に3年生対象)を同じく2/19に実施した。また、病院・福祉施設・薬局・企業等の求人開拓は継続して行った。

- (3) 平成21年度に採択された文部科学省の補助金(3ヵ年)のテーマである、「個別指導重視の就職支援体制の構築」に基づき、①防音型カウンセリングスペースを活用した個別キャリア指導の強化、②求人票データ閲覧システムの整備、③ホームヘルパー2級講座の無料開講の拡充等々を着実に実施した。また、事務職員1名(女性主任職)にキャリアカウンセラー資格を取得させるべく外部研修を受講させた。併せて11月からは文部科学省の追加補助金(平成22年11月から平成23年3月まで)を受けて、ハローワークの元職員を相談員として雇用(派遣契約)し、就職支援体制の強化を図った。

これらの取組みの結果、平成22年度の就職内定率は99.1%となり、過去最高だった昨年度の98.7%をわずかながら上回った。

5. その他の事業

- (1) 順正学園学術交流コンファレンスを開催するにあたって学園内にて演題募集を行い、本学で平成23年3月5日(教育部門6名)、6日(研究部門10名)の2日間渡り開催した。
- (2) 地域貢献の一環として、各種委員会委員、審議会委員、セミナー講師などで地域に貢献した。
- (3) 旧延岡西高等学校の跡地利用で、宮崎県が延岡地区総合特別支援学校(幼稚部から高等部)の設置構想を検討している。本学としても地域振興の発展のために、社会貢献部門として昨年度どおり継続支援を行った。
- (4) のべおか子どもセンターは、平成19年度から開始した事業であり、延岡市教育委員会と協定を結び、さまざまな事業を展開している。これは、親、家庭、地域が子どもと共に成長しながら、子どもの視点に立ったコミュニケーションを図ることを目的とし、6月から2月まで、毎月1回親子体験活動を開催し、多数の参加者があり好評を得た。
- (5) のべおか市民大学院は、11回開催(オリエンテーション、研修会を含む)、本学独自の公開講座を6回、地域QOL推進マネージャー養成講座を16回開講し、こ

これらの講座は、地域の方々に対し生涯教育の場を提供した。

- (6) 平成19年4月1日に大学基準協会から加盟判定ならびに認証評価を受けており、その認証評価期間が5年目に当たる平成24年3月31日で切れるため、昨年度 学長の下 教職員一体となり自己点検・評価報告書作成に取り掛かり、この4月1日に無事提出することが出来た。

吉備国際大学短期大学部

1. 平成22年度教育方針

本年度の重点目標を以下のとおり定め、教職員が一丸となって取り組んでいく。

- ・吉備国際大学短期大学部への円滑な移行を図る。
 - ・順正短期大学の素晴らしい伝統を引き継ぎながら新しい短期大学部を創出する。
- また、前年度に引き続き、以下の3つの数値目標を定め、全力で取り組む。

- ・定員の確保 100%
- ・国家試験合格率 100%
- ・就職率 100%

2. 各事業の概要

1. 教育関係

自己点検・自己評価及びFD活動

(計画) 自己点検・自己評価の実施を継続すること。また、組織的なFD活動を通じて、教育力の向上を図る。

(成果) 自己点検・評価は、例年どおり教育・研究・地域貢献の三分野において実施

した。なお、公表は数年間の点検・評価の実績を踏まえて行う。FD活動として、人権教育に関して継続実施。

順正タイム

(計画) 全学同時限のホームルーム活動時間を設け、学生と教員の相互理解や帰属意識を深めることを目的として順正タイム（月曜日5時限）を継続して実施。

(成果) 各科・専攻ごとに独自の企画を立て、学生と教員の相互理解に役立てている。また、全学の合同行事として、交通安全教育、禁煙教育、人権教育等に活用した。

2. 通信教育関係

(計画) 通信教育は、誰でも、何時でも、何処でも教育を受けることができる、まさに現代のニーズに対応した教育手段である。専攻科メディカルビューテイ専攻の充実に向けて一人ひとりに親切で、面倒見の良い通信教育を展開していきたい。

(成果) 専攻科メディカルビューテイ専攻を修了した学生は非常に高い満足度で修了した。卒業後も同専攻科の特別講義で実施する開講科目の受講を希望している。22年度も引き続き、受講者が満足できるよう努める。

3. 研究関係

科研費（基盤C）（継続）1件

・中村真理子教授（基盤C）交付額 1,300千円

4. 就職・進路指導計画

学生一人ひとりが満足できる進路先へ決定できるためのサポートを行なうとともに就職率100%を達成するために下記の事業を行う。

(計画) (1) 学生個々の進路に関する詳細な情報を掴み、キャリアサポートセンター職員・就職委員・チューター・就職連絡事務所長とも密に連絡を取りながら、学生個々の進路状況等を把握し、個別支援を重視していく。

(成果) 学生個々の進路状況等について、各科専攻の就職委員等と随時連絡を行うことで情報を共有化し、その情報を基にして学生一人ひとりにあったサポートを行った結果、就職率が100%になった。

(計画) (2) 岡山駅前キャンパスの学生に対しては、キャリアサポートセンター職員が岡山駅前キャンパスに行き、学生への個別支援を行なった。

(成果) キャリアサポートセンター職員が、前期は週に2日、後期は週に3日岡山駅前キャンパスに行き、美容デザイン専攻、メディカルビューティ専攻の学生個々と面談を行い、具体的な受験先を決定し、就職へ結び付けた。

また、歯科衛生専攻の学生が後期から岡山での実習のために、週2日岡山学舎へもキャリアサポートセンター職員が行き、学生と個別に面談を行い、具体的な受験先を決定し、就職へ結び付けた。

(計画) (3) 就職ガイダンスを1・2年次の6月から年5回、OG・OBガイダンス(2回)・業界人の講演(2回)、夏季集中講座(2日間)等を実施し、就職意識の向上、キャリアサポートセンターの活用方法、履歴書の書き方、模擬面接、電話の掛け方、内定お礼状等々、意識面、実務面の両面をサポートしていく。

(成果) 学生支援G P補助金により、補助事業の目的である「就職のための人間力育成」を達成するために、各科専攻ごとの特別プログラム(業界人の講演ほか)をはじめ、順正学の講演、マナー教育や自分を見つめなおすためのOG・OBガイダンスの実施、講師による就職シンポジウムを開催した。

1年生に対しては、就職の意識向上に繋がるガイダンスを実施し、2年生に対しては、就職の具体的な実務面のガイダンスを実施した。

(計画) (4) 吉備国際大学、九州保健福祉大学との合同就職情報サイトを活用する事により、求人情報・合同就職説明会情報等大学の枠を超えて共有することができ、特に地方出身学生に対してはより多くの情報を提供することで支援を行なう。

(成果) GAKUENシステム就職支援情報サイトで求人情報等がリアルタイムに検索できるようになった。

(計画) (5) 加計グループ合同で開催する就職懇談会、各地域で実施される企業説明会・福祉説明会等へ参加して求人情報の収集を行なうとともに、学生が就職を希望する事業所へも積極的に訪問し、求人先を開拓する。

(成果) 就職懇談会福岡会場および東京会場、岡山県内で開催される福祉説明会、企業説明会への参加、および吉備国際大学就職面談会へも参加し、求人情報の収集を行った。

また、美容・エステ関係の事業所へは、本社を中心に新規の求人開拓を行った。

5. その他の事業

(1) 社会貢献(実施)

メディカルビューティ専攻の学生が施設を訪問し、メイクやハンドマッサージを実施した。

また、地元の就学前の子どもと保護者を対象に、子育て支援をする、幼児教育科子育て支援事業「なかよし広場」を開催。

順正高等看護専門学校

I. 平成22年度教育方針

『県下一の看護学校をめざす』を目標に、各自が自分の立場や役割を自覚し、昨年達成できなかった事項の反省をし、できるだけ具体的且つ可能な限りの具体的数値的目標を設定し努力していきます。

1. 学生募集と入学生増加へ向けて、最低数 60 名を目指す。少なくとも、今年の人数を上回るように、努力していきます。

具体的目標としては、以下のとおりです。

- (1) オープンキャンパスに積極的に取り組む
- (2) 卒業生や在校生と共に彼らの出身校へ働きかけ(できれば出身校での経験談披露など)、本校への希望を募ると共に加計グループ校への導入を進める
- (3) 一度つながりができた生徒とは連絡をとり、本校からの学校・学園ニュースを送付する。可能な限り送付については、1回/月程度とする。

- (4) 県下の病院から変更し、高梁・新見地区など近辺の病院・医院へと働きかけ、院長推薦入学の特別枠を引き続き宣伝し、病院職員のこどもたちの導入を再度試みる。
 - (5) 社会人枠の設定とその受け入れ態勢の具体的システム作りを考える。
2. 中途退学者を出さないように、学生の状況に注意しながら細やかな学生指導を行います。今年
の目標値として、少なくとも在 student 数に対する比率において、前年度を下回るように、でき
れば1桁台をめざします。
対応策としては、以下のとおりです。
- (1) 講義や実習を3回もしくは3日欠席した場合には、すぐに連絡をとり対応する。
 - (2) 保護者との連絡は、早期からいれ、事態に対処できるようなシステム作りをする。
3. 看護師国家試験の合格率向上に向けて、各学年毎に具体的目標を掲げ、これまでに行われてい
ないような試みを取り入れ、達成に向けて日々努力していきます。少なくとも、今年の合格率
の目標は90%以上でかつ全国平均以上にもってゆきたい。
4. 生徒を大切に思う心温かい面倒見のよさと本校で過ごした3年間で社会的、日常的な習慣・性
格のよさが身についたと言われるような評判をつくりあげ、在校生が自ら後輩に是非本校に受
験するように勧めてくれるような学校になるべく努力していきます。
5. 地元地域との連携として、今年も近隣の医療機関や福祉施設の病院長、施設長推薦入学枠を維
持すること、昨年度より加わった成羽病院を実習病院として引き続き利用する予定。医療機関
や福祉施設の住宅で空いているところを学生の下宿として使わせていただく試み、地元医療機
関や医師会と奨学金制度の設立を工夫するように努力していきます。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 毎日、関係者間で連絡を密にし、学生の状況把握に努める。その過程に於いて、成績や
態度面の気になる学生については、個別面接を行うと共に、保護者へも連絡を早期から
入れ、対応していく。

⇒

中途退学者を出さないように、学生の状況把握に努め、早期に対応できるように努力して
いる。保護者から相談があった場合、日曜日などの時間も活用し、
相談の時間が持てるようにすると共に、関係者間の連絡を大事に対応している。

退学者 13名

- (2) 問題が解決しない場合は、個別指導の担当者を変更するなど、問題の事態ができるだけ
よい方向で解決できるように、校長、校長補佐、担任等関係者が協力しながら、継続的
に指導にあたる。

⇒

関係者相互の連携を蜜にとり、問題解決に向けて継続的に努力している。

- (3) 国家試験合格に向けて、基礎学力強化を図るために、各学生・学年の状況把握に常に努めながら学習環境を整えると共に指導方法の工夫を試みる。定期試験結果だけでなく、模擬試験においても結果を郵送し、現状をお伝えし、協力体制をとりながら、指導にあたる。

⇒

- ・ 3年：学習支援担当者を決め、少人数の学生を受け持ち、学習支援を継続的に行う。そのほか、放課後や・土曜日などの課外の時間を活用した学力対策、夏季（合宿）や冬期休暇の時期を活用した学力対策を実施している。そして模擬試験や小テスト、総まとめ試験（試行的）なども実施している。
- ・ 2年：計画的に知識習得に向けて学力対策を実施している。
週1回の小テスト、3～4人のグループでのプログラム学習（1回/3週間）、状況設定問題対策、必修問題対策等を計画的に実施。そして、知識の習得状況確認の場として模擬試験などを行っている。
- ・ 1年：看護師国家試験問題集を全員が購入し、国家試験合格に向けて、学習方法を学べるように、知識の習得ができるように計画的・段階的に取り組んでいる。知識の習得状況確認の場として、業者の模擬試験を実施している。

- (4) 教育効果を高めるために、毎年講師連絡会議(5/28)や実習指導会議(11/26)を設ける。

⇒

いずれの会議も、予定通り実施している。

- (5) 入学後の学校での学習や生活がスムーズに過ごせるように、入学前ガイダンスを行う。

⇒

平成22年度は、1回（H23.2.5 土曜日）実施している。

2. 研究関係

- (1) 看護教育評価を行い、学術コンファレンスへの投稿等へも取り組む努力をする。

⇒

投稿できていない。

- (2) 学園内の研究発表だけでなく、他の学会や研修会参加など自己の看護教育力が向上するように意識的に、自己研鑽に努める。

⇒

業務に支障のない場合には、学会や研修会にも参加するなど、教育力が向上するように各自努めている。

3. 就職・進路指導計画

- (1) 3年生対象に進路ガイダンスを3回実施し、自分の将来の目標、適性など考えて進路が決定できるように進めていく。

⇒

計画的に進路ガイダンスを実施している。今年度は、岡山県看護協会ナースセンターからも講師招聘を行っている。就職試験時にも活かせるように、面接の受け方(対応・マナー)について講師を招き、説明していただく時間を設けている。

H22年度 求人件数 637件、内定率 96.8%である。

- (2) 1,2年次生には折りに触れ就職状況や先輩の活動等を話し、3年次に進路を具体的に考えるための導入を行う。

⇒

卒業生の来校時には、できるだけ学生に直接医療の現状をお話していただく時間を設けている。また、メッセージカードや近況報告(はがき)を頂いた場合には、学生に掲示にて紹介している。

- (3) 3年生が集合する機会を利用し、医療の現場で活躍している卒業生を学校に招き、進路を決定するまでの経緯や、医療現場の状況を話してもらおう場を持つことで、看護職や就職に対する意識の向上を図っていく。

⇒

進路選択・決定するにあたり各学生の参考になるように病院代表者による「病院紹介」を行っている。また、できるだけ本校卒業生の動向又はメッセージ(近況報告)持参を合わせてお願いし、それを学生に紹介し、進路コーナーに掲示している。

- (4) 学生が就職した病院との関係を良好に維持できるよう、求人に来られた際には丁寧に対応していく。また、卒業生がどのような状況で勤務しているか等、病院を訪問し話を聞かせて頂く機会を積極的に作り、今後の就職指導にいかしていく。

⇒

できるだけ丁寧な対応を心がけている。卒業生の勤務状況をうかがうなど、学生が奨学金などをもらっている病院の方が来られた場合などは、特に関係者ができるだけ対応するようにしている。

- (5) 大阪・広島・福岡の就職懇談会を大事にし、就職している学生の様子を聞き、問題点などがあれば在校生に反映させ指導を強化していく。各病院と学校とのパイプがとぎれることがないようにしていく。

⇒

就職懇談会には、できるだけ担当者が出席できるように、また問い合わせが病院から入っ

た場合にも丁寧に対応するように、心がけている。

H22 年度参加した就職懇談会は、広島・大阪会場に出席している。また、特に本校（卒業生）がお世話になっている病院には、進路担当の本校教員が出向き、状況など直接うかがうようにしている。（例：甲南病院など）

4.その他の事業

(1) 順正高等看護専門学校実習室の空調設備の取替を順次実施し、教育環境の整備を図る。

⇒

学生が安心して学習できるように、設備の状況を確認し、必要な箇所においては順次取替えを実施するなど、教育環境の調整を図っている。

九州保健福祉大学総合医療専門学校

I. 平成 22 年度教育方針

(1) 全体目標 「高校生から、社会から選ばれる学校づくり」

開校 6 年目に入り、教育の更なる充実を図り、その結果をもって社会に本校の存在を認めてもらえるよう積極的にアピールして全体目標としての「選ばれる学校づくり」を目指す。

○本年度の重点目標

- ① 「自己点検・自己評価」を実施しまとめる
- ② 教育の強化・・・教育力の工夫
- ③ 社会への働きかけ・・・東洋医学のアピール

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 看護学科

◎ 看護学科の教育目標

学生が社会人として、専門職業人としてふさわしい態度がとれるよう教育し、選ばれる学校とする。

【具体的手立て】

① 「自己点検・自己評価」の実施。

- 1) 臨地実習、講義、教科外活動、国家試験、進路指導等に関する項目を重点的に「自己点検・自己評価」を実施し、今後の学科運営に活かす。
→実施した。さらに開学5年間を点検中である。

②教育の強化

- 1) 初年次教育の充実を図る。→ 実施した。
- 2) 予習復習を基本に個々に応じた効果的な学習方法を身につけさせる。
- 3) 学習習慣・方法を獲得させる。
- 4) 自主的な学習方法を取り入れ、習慣化させる。→2)、3)、4) 取り組み済み。
- 5) 学生の修得状況に応じた効果的な集団指導や個別指導を行う。
→実施した。成績下位グループには重点的に個別指導を実施した。
- 6) 国家試験合格率100%を目指す。→昨年度に続き100%の合格率だった。
- 7) 卒業生による就職・進学ガイダンスを実施することで、県内への就職率をアップさせる。また、進学希望者が年々増加することで、高校生とその保護者より選ばれる学校となる。
→就職・進学ガイダンスを夏休み前に実施した。保護者の参加多数あり。県内就職率が伸長し、県外就職率を上回った。
- 8) 学内演習の強化は基礎教育における責務であることを教員一人ひとりが認識し看護実践力を高める。
 - a. 基礎教育での技術教育を充実させ、事例の工夫、リアリティのある学内演習、卒後を意識した学内演習を強化していく。
→実習指導教員の指導力を向上させ、演習の強化を図った。
 - b. 卒業時の技術修得と臨床とのギャップを埋めるために、演習の強化と臨床との連携をとる。
→実習施設側と意見交換し、後輩看護師を育成するという共通認識を持つことで連携を強化した。

③専門職業人の育成

- 1) 社会人として基本マナーを身に付けた専門職業人を育成する。
 - a. 入学時より学年に応じた接遇教育を計画的に実施していく。
→入学初期から接遇教育をスタートした。

- b. 講義、実習、教科外活動を通して社会人としてのマナーやルールを身につけ、専門職業人として相応しい態度が取れるよう指導していく。
→「専門職業人である前に社会人」という共通意識でマナー教育を実施している。

④社会への働きかけ

1) 東洋医学のアピールをする。

- a. 看護実践に必要な東洋医学のエッセンス（つぼ）を取り込み、具体的なアプローチの方法を学ぶ教育内容とし、本学科の目玉とする。→ヨガ講座を実施した。

(2) 鍼灸学科

◎鍼灸学科の重点目標

- ①教育の充実
- ②入学者の確保（特に第1鍼灸学科）

【具体的な手だて】

① 教育の充実

1) 一人でも多くの学生を国家試験に合格させるための取り組み

- 第一鍼灸学科 16人中 14名、第二鍼灸学科 10人中 8名が国家試験に合格し、昼2名、夜2名の計4名が不合格であった。
- a. 受験対策授業（総合臨床演習）のより高度な専門教育充実のため、オムニバスで実施
→国試の出題傾向やポイントを絞ったきめ細かな受験指導を実施した。
- b. 模擬試験の実施回数増加（年6回）
→実施した。
- c. 成績不振学生との面談実施
→学習への取り組みや学習方法の問題点を明らかにすることで、成績が向上した。
- d. 1年次より国家試験を意識させた授業の実施
→非常勤講師に過去の国家試験問題を配付し、試験対応をしていただいた。専任教員は担当科目の出題傾向などを細かくチェックし講義に活かした。

2) 成績不振による留年者・退学者をなくすための取り組み

- 積極的に関わったが、両学科とも成績不振による退学者が1名ずつでた。
- a. 家庭との連携〈出席状況、学習状況の密な連絡〉
→教員と家庭との信頼関係が形成され、指導に役立った。
- b. HR面談の実施〈学習習慣の把握と指導〉
→学習上の問題点を明らかにし、学習計画の作成を行った。
- c. ボトムアップのために教科書の徹底活用
→配付資料の見直しを行い、教科書の活用を心がけた。

d. 各教員の教科指導方法の共有化による教科指導の充実

→一部の実技について補助教員として講義に参加するにとどまり、教科指導の共有化は充分達成できなかった。

②入学者の確保(特に第一鍼灸学科)

→第一鍼灸学科の入学者は10名で定員30名にはほど遠い状況である。第二鍼灸学科の入学者数は15名で定員を満たした。

1) オープンスクールの充実(相談会やミニオープンスクールの実施など)

→夜間オープンスクールを実施した。学校見学および入学相談については随時受け入れた。

2) 講演会などを通して宮崎県下の高校教諭に対する鍼灸の啓蒙

→高校教員を対象に講演を行い鍼灸のPRを行った。

3) ホームページの充実などを通して、市民の「鍼灸」認知度を上げる

→事務局との協力がうまくいった。スポーツトレーナーによる講義の様子を掲載したり、「鍼灸質問箱」の更新を行うことにより情報発信に努めた。

2. 事務関係

(3) 事務室

①「入学定員の確保」について

→看護学科と第二鍼灸学科は定員を充足したが、第一鍼灸学科は大きく定員を割った。

1) 宮崎県専修学校各種学校連合会が実施している「ワーキングスタディ」(出張授業や長期休暇中の体験プログラム等)等に積極的に参加し、鍼灸学科の知名度を上げる。

→積極的に参加したが、現役(若年)学生への訴求が足りなかった。

2) 鍼灸学科のポスターを県内の鍼灸院に配布し、待合室に貼ってもらうことで鍼灸治療を受けている人たちに鍼灸学科の存在をアピールする。

→鍼灸マッサージ師会の協力でポスターを貼らせていただいた。

②「教育の強化」への積極的な関与

1) 看護学科専任教員(母性看護学)の採用支援

2) 看護学科実習施設の追加への協力

3) 校内の環境整備・向上

4) 国家試験対策等(補習等)の支援

5) 学生情報の共有化・・・積極的な声掛けや見守りの実施。

6) マナー教育への積極的な関わり・・・積極的な挨拶(声かけ)、窓口対応時等のマナー指導など。

→鋭意努力した。ほぼ計画どおり実施できた。

③「社会への働きかけ(東洋医学への働きかけ)」について

1) 鍼灸の社会的認知を広げる意識を持って鍼灸学科募集広報に努力する。

2) 統合医療、東洋医学に関するセミナーやイベントを積極的に企画し、効用等の周

知に努力する。

→募集広報はちらしを配布するなど鍼灸中心に実施したが、看護の反響の方が大きかった。

④「自己点検・自己評価」の実施について

- 1) 学校全体の自己点検・自己評価
- 2) 募集に係る事務の点検と再評価
- 3) 事務室の業務全般を点検し、再評価

→次年度以降の事務改善に活かすよう点検した。

平成22年度国家試験結果

	国家試験種別	現役受験者数	現役合格者数	現役合格率	全国平均	備考
吉備	看護師	34	34	100.0%	96.4%	
	保健師	42	36	85.7%	89.7%	
	理学療法士	38	34	89.5%	78.5%	

	作業療法士	44	38	86.4%	79.6%	
	社会福祉士	109	20	18.3%	28.1%	
	精神保健福祉士	14	8	57.1%	58.3%	
九保	作業療法士	33	18	54.5%	79.6%	
	言語聴覚士	33	33	100.0%	86.5%	
	視能訓練士	25	25	92.0%	96.7%	
	臨床工学技士	20	20	100.0%	86.4%	
	社会福祉士(通学制)	115	29	25.2%	28.1%	
	(通信制)	75	37	49.3%	28.1%	
	精神保健福祉士	27	10	37.0%	58.3%	
	薬剤師	34	21	61.75%	44.98%	前年度留年生等受験
短大	歯科衛生士	26	24	92.3%	96.5%	
	美容師	12	11	91.7%	80.0%	
高看	看護師	31	29	93.5%	96.4%	
九専	看護師	33	33	100.0%	96.4%	
	はり師	26	22	84.6%	95.1%	
	きゅう師	26	22	84.6%	95.3%	